

平成26年 5月 19日（月）作成

主担当：田村 武士・副担当：片山 敏郎・一瀬 翔

平成26年度教育事業評価 PDCAシート（プログラム開発・指導者・連携事業）

事業区分	プログラム開発・指導者養成・連携協力事業
事業名	青少年体験学習ボランティア養成研修
実施期間	平成26年 5月10日（土）～11日（日）
参加者	【参加人数／募集人数】＝57名／60名 【対象】高校生・大学生・一般
連携	【連携先】  【連携先との役割分担、連携内容】
PLAN	<p>【事業企画にあたっての背景、対象ニーズ、現状分析、仮説等】</p> <p>○近年、日本が経験してきた数々の大震災や災害において、ボランティアの存在価値が高まってきている。その中でも、多感な時期である。青少年によるボランティア活動の重要性が求められている。</p> <p>【事業の目的・目標】</p> <p>○国立青少年教育振興機構のボランティア養成共通カリキュラムによる研修を行い、青少年教育の体験学習活動を支援するボランティアに求められる知識や技能を習得させ、教育事業や研修支援事業などへの運営協力や指導における実践機会の場面を与えることで、ボランティア活動の意欲を高め技能の向上を図る。</p> <p>【本企画のポイント（ウリ）】※継続事業については別紙記入</p> <p>○大学のボランティアサークルと連携して、毎年参加者をつのっている</p>
DO	<p>【事業実施・運営にあたり工夫した点】</p> <p>○最初の講義・実習に、徳地アドベンチャープログラム（TAP）を体験する時間を設定することを通して、参加者同士の協調性や信頼感を高め、今後のボランティア活動においても基盤となる考えを身につけた。</p> <p>○「青少年教育の理解」として、子どもの実態把握や子どもと関わるときの悩みや大切にしたいことなど、お互いが意見を交し合い、自分の思いを整理する時間を設けた。</p>
CHECK	<p>【支出経費／予算】＝19万円／20万円</p> <p>【成果の具体的内容】</p> <p>○青少年教育の体験学習を支援するために必要な知識や技能について学び、青少年教育に関わっている講師の方たちや自然の家職員とのつながり、ボランティア同士のつながりを深め、今後のボランティア活動に対する意欲が高まった2日間になった。</p> <p>○今回の研修を「参加体験型学習」でプログラム構成していったことで、参加者同士のコミュニケーションを促進しただけでなく、ボランティア活動への参加意欲をさらに高めることができた</p> <p>【見えてきた課題】</p> <p>○参加者のターゲット層をどこにするかによって、研修内容も変える必要がある。</p> <p>○今後の本所での活動を考えると、本所スタッフとの関係作りも重要になってくる。</p>

ACTION	<p>【今後の方策（次年度への改善点）】</p> <p>○2日目のお昼にチームで野外炊飯を加えると、チームづくりとしての流れが出来る。 その後の振り返りで行う「ウィッシュ・ポエム」も大変盛り上がる事が予想される。</p>
成 果	<p>【得られた知見】</p> <p>○大学生にとって、「ボランティア活動」が年々身近な存在になってきている</p> <p>○子どもを対象にしたボランティアに対してのニーズが高い。</p> <p>【参加者満足度： 95%】</p> <p>【参加者コメント（講師評価含む）】</p> <p>○ボラ活動における「目には見えない部分」の大切さを学びました。</p> <p>○「いい失敗」をたくさんして成長することが大切だと感じました。</p> <p>○たくさんの人と一緒にひとつのことをしていくことは、とても充実感があり、楽しかった。</p> <p>○「正解のない答え」を考えることの素晴らしいと感じた。</p> <p>○ボランティアという体験学習からは、自分にも相手にも成長の場となりました。</p> <p>【公立施設や民間団体への普及状況・普及予定】</p> <p>○県内の自然の家施設に、ボランティアの斡旋</p>
講 師 ボランティア	<p>【講師名・所属・担当内容】※機構職員が講師を務めた場合も記載</p> <p>○人間科学研究所 所長 志賀 誠治 氏</p> <p>○山口県教育庁社会教育・文化財課 社会教育主事 齋藤 直樹 氏</p> <p>【関わったボランティア】のべ人数（全体指導者・補助指導者の数）</p>
その他 特記事項	

# ボランティア養成研修

期日 平成26年 5月10日(土)～11日(日) 参加者数 57名(高校生・大学生・社会人)

☆青少年の体験学習活動を支援するボランティアの養成を目的とした「青少年体験活動学習ボランティア養成研修」を実施しました。☆

☆人間科学研究所長の志賀龍生氏に講師を依頼し、ボランティア活動に必要な知識・技術の習得や、「参加体験型学習」について体験的に学んでいった2日間でした。☆



## さあ、次のステージへ！ いざ、ボランティア活動のスタート！

青少年機構において優秀なボランティアに対する表彰制度が創設され、山口大学の金子真希さんが選ばれました。みなさん、今後の活動に対するやる気に満ちた表情でした！



本所エLEMENTを使った「TAP」を通して、協調性やグループの成長・変化を学びます！



徳地の森の中で「妖精」みつめました！



子ども達と関わるときの悩みや大切にしたいことなど、参加者同士で意見を交換しました！



2日間通して学んだことを、グループで「ウィッシュ・ポエム(詩)」にしてまとめました！

【参加者の声】☆ボラ活動における「目には見えない部分」の大切さを学びました！☆「いい失敗」をたくさんして成長することが大切だと感じました！☆ボラをするときに生じる悩みに対する正解がない！☆たくさんの人と一緒にひとつのことをしていくことは、とても充実感があり、楽しい！！☆自分が出来ることの範囲がすごく狭かったことに気づかされた！☆「正解のない答え」を考えることの素晴らしさ！☆失敗を恐れず、ヒトはいつでも成長できる！☆教えるのではなく、あくまでもサポートすることに重点を置かなくてはならない！！☆自信をもって、失敗しても笑顔で挑戦し続けること！☆子どもと共に成長していくボラでありたい！！☆失敗も勉強！怖がらずに挑戦すること！☆ボランティアという体験学習からは、自分にも相手にも成長の場となる！